

がんばっています!

- No. 45 -



水野 尚哉さん
(太田地区・五荷)

「なぜ農業をしているの
だろう?」そう自分によく
聞いています。たどり着く
答えは時間が経つにつれ深ま
りますが、だいたい同じで
す。

僕にとつての農業の始ま
りは小さい頃の記憶。じい
ちやばあちゃん、おとんおか
んが畑で作ってたジャガイ
モなどの収穫を手伝ってい
ました。いや、手伝いにも
なっていないかったかも。

農の世界に本格的に入っ
たのは高校生の時に経験し
た高原での大根収穫のアル
バイトでした。アルバイト
では農業のネガティブ3K
(きつい、汚い、危険)を
もろに感じていました。真
夏の炎天下の下、日陰もな
い広い畑で汗だくになりひ
たすら収穫作業をする。体
はマッチョのように筋肉と

皮だけになり絞れていまし
た。当時は単にお金を稼ぐ
手段という感覚だけでやっ
ていたのかも知れません。

ある日のメシメシオート
(めし前仕事)。日の出前。
夏の早朝は気温も低く、仕
事をするにも汗もほとんど
かくことなく体の負担が全
然違いました。

高原の畑から千曲川沿
いに雲海がくつきり出てい
たのを見ました。空気も美
味しくて空も少しづつ明る
くなり、景色も良くて、な
んかめっちゃ気持ちよくて。
その時に向かいの山から綺
麗な日の出の瞬間を目の当
たりにしました。衝撃的で
した。太陽の光の線がくっ
きり見えて、作物が朝日を
浴びる瞬間を初めて見た光
景でした。自然の圧倒的な
力を肌で感じ、この場に身
を置けていることにただた
だ感動した瞬間でした。こ
の時の感動を今でも覚えて
います。

この日から少しづつ価値
観が変化していきました。
現在は、お米作りを中心

に栄養価の高い
農産物の生産
に取り組んでい
ます。農の捉え
方は十人十色。

様々なやり方が
ある中、お互い
のやり方を尊重
しあえ、共有で
きることを増や
す環境づくり
が重要だと考
えます。

主に山あい
の中山間地区
で耕作をしてい
ますが、圃場の
形はよくなかつ
たり、土砂災害に遭いや
すかったり、獣害も近年
頻繁になったり、圃場
によって水もちや水はけが
悪かったりします。
条件はよくありません
が、なぜかワクワクして
います。美味しいお米が
育ってくれるからでしょ
うか。

ここにいると想像力が
養われます。ここにいる
とさまざまな可能性を感



じます。訪れる方に話を聞
くと、これからの時代に必
要な「何か」がここにある
と確信させてくれます。未
来が楽しみです。

農業委員レポート
軽トラ朝市
飯山地区
農業委員
山崎 隆寛
昨年11月8日(日曜日)
朝靄(あさもや)がかかる

この時期らしい天候のも
と、飯山市内各地より自
慢の農産物や加工品を持
ち寄った出店者が集まり、
軽トラ朝市が開催されま
した。

今思うと新型コロナウ
イルス第3波の本格襲来
前に実施できたことが何よ
りでした。生産者と購入
者が語り合いながら購入
ができることにお互いが励
まされ、笑顔の絶えないひ
とときとなりました。

今まで当たり前に行っ
てきた人と人とのコミュニ
ケーションの大切さを再認
識すると共に、少しでも早
くこのパンデミックから解
放され普通の日常に戻る
ことを願うばかりです。
朝市は数年前までは定
期的に同会場にて実施し
ていましたが、ここ数年は
開催されずにおりました。
今回久しぶりの開催に至っ
た経緯は、私も所属してい
る飯山地区農業再生セン
ターの会議の中でこのこと
でした。飯山地区はまとま
った農地が少なく、規模の

拡大が難しいこと、認定農
業者数も数える程しかない
状況です。この地域
独自の取り組みをしてみ
てはどうだろうかという声か
らの始まりでした。

飯山市の中心地という立
地を有効活用し、規模の大
小に関わらず自分が作った
農産物を直接消費者の方々
に手にしていただく場を設
けることで、生産意欲の向
上や遊休農地の解消に繋が
るのではと思いつきました。
設置にあたり経験豊富
な「いいやまふれあい市の
会」の方にも会議にご出席
いただき共同開催という形
で実現に漕ぎ着けました。

当日は個人・法人・団体
の方々も含め10者程の参加
をいただき、9時から10時
までの開催となりました。
開始時刻前から来場者が
訪れ盛況でした。



▲新米を購入している様子

出店者の中には、一昨年
飯山で新規就農した若手
もおり、自慢の農産物を
来場者に販売する姿も見
受けられ、手応えを感じて
いる様子も見せてくれたこ
とを嬉しく思います。時期
的なこともありましたが、
ネギ・大根・白菜などの冬
野菜や旬の果物は売れ行
きもよく、早々に完売した
出店者も見受けられまし
た。

今回のいいやま軽トラ朝
市は、今まで開催経験の
ない我々にとって試験的な
試みでもありましたが、結
果として市民の皆様にも出
店された皆様にも良い機
会となったのではないかと
捉えております。来場者ア
ンケートからは、新鮮な野
菜を作り手から直接購入
できて満足していること、
年数回の開催を望む声も
複数あったこと、畑のない
人にとっては貴重な場であ
ることなど嬉しいご意見を
いただきました。出店者か
らも営業活動や人脈づく
り、消費者との会話を通
じて農業の状況を発信す
る場となったなど、自身の
生産・販売意欲向上につな



▲新鮮な野菜をたっぷり購入

がったとの声をいただき
ました。
次回開催予定は未定で
はありますが、今回感じ
た手応えをもとに、飯山
地区農業再生センターの
メンバーと共に協議し
開催できるように進めて
参りたいと考えておりま
す。結びに、この場をお
借りして、ご来場くださっ
た方々、出店いただいた
農家の皆様に御礼を申し
上げます。

あしあと (1・2月の活動記録)

- 1月8日 農業委員会役員会
- 27日 1月農業委員会総会
- 2月15日 農業委員会役員会
- 25日 2月農業委員会総会

農業委員・農地利用最適化推進委員を募集します

◆募集人員、任期

委員名称	募集人員	委員任期
農業委員	1名	令和3年8月1日から3年間
農地利用最適化推進委員	1名	令和3年8月1日から3年間

◆応募資格

市内に住所を有し、農業に関する見識を持ち、農地に関する許認可や農地利用最適化の推進など、農業委員会の職務を適切に行うことができる方。

◆委員の役割

- ・農業委員…農地の権利移動、転用の許可等の審議・決定、関連する農地の現地確認や、農地利用最適化の推進に係る業務を行います。
 - ・農地利用最適化推進委員…担当地区において、農地利用最適化の推進に係る業務を行います。総会での議決権はありません。
- 上記のほか、担い手への農地の集積・集約化や遊休農地の発生防止・解消地域の農業者・地権者等の話し合いの推進や出し手の掘り起こし等の業務については協力して行います。

◆報酬等 市条例で定める額

◆募集期間 令和3年3月15日(月)～4月12日(月)

◆応募方法 所定の応募様式により応募してください。農業委員会にお問い合わせいただくか、市のホームページでご確認ください。